

『地場産業大賞次世代賞』受賞

財団法人高知県産業振興センターが実施する「高知県地場産業大賞」は、県内で作り出された優秀な地場産品や地域産業の振興に貢献のあった活動を顕彰する賞で、今年度から新設された「次世代賞」(高校生対象)に大方高校の「カツオたたきバーガー」が選ばれました。



鯨節を練り込んだこだわりパンズに厚切りたたきを挟み、特製ドレッシングで味付けしたバーガーは、ピオスおおがたや町内のイベントなどで食べることができます。

「カツオたたきバーガー」は、黒潮町を知るとともに、課題探求力、発想力、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とした、大方高校の「総合的な学習」での取り組みにより生まれたものです。昨年度、当時2年次の生徒らは11の班に分かれ、「地域の建具屋さんの売上を伸ばす」や「ホエールウォッシングの集客数を倍増させる」

など、それぞれにテーマを設定。インタビュアーや現地調査、話し合いを重ね、アイデアを出し合いました。

このうち谷淵勇輝君らの班は、黒潮町雇用促進協議会と協力し「幡多の郷土料理を考えよう」というテーマのもと、「いろいろな食材を使って考えたけど、黒潮町といえばカツオ!」と、たたきを使ったメニューを開発することにしました。

「最初からいい商品だったわけではなく、試行錯誤を繰り返して、また地域の方たちにアドバイスをもらって創り上げた自慢の一品です」とメンバーの一人、澳本恭佑君。「黒潮町を代表する特産品になってほしい。今後はもっとPRして観光客を集めることができる目玉商品にしていきたい」と意気揚々と話してくれました。



イベントでカツオたたきバーガーを販売する谷淵君(左)と澳本君(中)。この日はみごと完売しました。

心に響く作品がずらり!

知的障がい者のための施設「大方誠心園」では、5年ほど前から絵画や書道など、障がいがある方の文化活動の推進に取り組んでいます。昨年5月に開催された「Tシャツアート展」に出展したことをきっかけに活動は本格化。障がいの程度に関係なくアートの興味を持った利用者を集め、毎月1〜2回「アートの日」を設けての創作活動が始まりました。

毎回アートの日には、別棟のプレハブに15〜20人が集まり、今年のTシャツアート展に応募する作品や「スピリットアート展」に出展する作品作りを進めています。



アトリエには、今にも動き出しそうな「龍馬」や「海」などの書や、ハートの形の中に鮮やかに描かれた風景の絵など、力作がプリントされたTシャツが並びます。



「私たちの優秀作品を集めたカレンダーができました。1部1,000円で販売していますので、大方誠心園(☎43-2139)までお問い合わせください」

施設内の壁にはいたるところに額に入った作品が飾られており、支援課長の金子美和さんによると「多くの人に見てもらいたいことがやる気につながる」とのこと。 「好きな方は2時間近く集中して画用紙に向かう。少しでも気に入らなければ作品はゴミ扱いにするし、私たち以上にこだわりがある」といいます。また、支援員の白木大介さんは、「僕たちの想像を超えたすばらしい作品ができています。障がいがある方もいろいろな才能を持っていることを広く知ってもらいたい」と話してくれました。